

平成27年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)

| 対象者 | そう思う | どちらかといえば、そう思う | どちらかといえば、そう思わない | そう思わない | 無回答 |
|-----|------|---------------|-----------------|--------|-----|
| 保護者 | 97% | 3% | 0% | 0% | 0% |
| 児童 | 85% | 15% | 0% | 0% | 0% |
| 教職員 | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% |

2 いじめや問題への対応

学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。

| 対象者 | そう思う | どちらかといえば、そう思う | どちらかといえば、そう思わない | そう思わない | 無回答 |
|-----|------|---------------|-----------------|--------|-----|
| 保護者 | 85% | 15% | 0% | 0% | 0% |
| 児童 | 96% | 4% | 0% | 0% | 0% |
| 教職員 | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% |

3 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

| 対象者 | そう思う | どちらかといえば、そう思う | どちらかといえば、そう思わない | そう思わない | 無回答 |
|-----|------|---------------|-----------------|--------|-----|
| 保護者 | 97% | 3% | 0% | 0% | 0% |
| 児童 | 96% | 4% | 0% | 0% | 0% |
| 教職員 | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% |

1「道徳・心の教育の充実」では、昨年度に比べ、教職員・保護者ともに4評価が増え、4・3評価では、教職員100%、保護者97%となった。今年度も、2学期末の授業参観で全学年、道徳・心に係る指導等の命に関する授業を公開した。また、毎週火曜日のVS活動や10月の「なかよし集会」の取組等を通して、子どもたちの心の教育の充実につながり、授業参観や子どもたちの姿を通して保護者が評価された結果だと考える。

2「いじめや問題への対応」では、保護者の評価は昨年度とほぼ同じ(4・3評価85%)であるが、教職員が4評価100%となり、児童の4評価が少し増え、4・3評価は96%となった。いじめ防止等対策委員会を立ち上げ、今年度で2年目を迎える。いじめはもとより、いじめにつながる可能性のある子ども同士のめめ事等についても、毎月「きずなアンケート」を実施したり、全児童対象の教育相談期間などを設定したりしながら、一人一人の子どもの実態把握に努め、課題に対応できる組織としての体制を整えてきた。そういう取組が教職員の自覚を高め、子どもたちへも伝わっているのではないかと考える。3「学校の支援体制」においても、教職員の自覚の高まりと保護者への浸透(学校の取組の伝わり)が伺われる。

今後も、道徳・心の教育の充実やいじめ・様々な問題への迅速な対応に努めるとともに、2と3の項目において保護者及び児童の1評価が見られるという事実を真摯に受け止め、日々の教育活動で児童の心に響く言葉かけや対応をさらに工夫し、家庭訪問や懇談会など様々な機会を利用して学校の取組を保護者に分かりやすく伝えていく必要がある。

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

4 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切に指導や対応ができていますか。

| 対象者 | そう思う | どちらかといえば、そう思う | どちらかといえば、そう思わない | そう思わない | 無回答 |
|-----|------|---------------|-----------------|--------|-----|
| 保護者 | 89% | 11% | 0% | 0% | 0% |
| 児童 | 84% | 16% | 0% | 0% | 0% |
| 教職員 | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% |

5 友達への思いやり

子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。

| 対象者 | そう思う | どちらかといえば、そう思う | どちらかといえば、そう思わない | そう思わない | 無回答 |
|-----|------|---------------|-----------------|--------|-----|
| 保護者 | 89% | 11% | 0% | 0% | 0% |
| 児童 | 84% | 16% | 0% | 0% | 0% |
| 教職員 | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% |

6 意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。

| 対象者 | そう思う | どちらかといえば、そう思う | どちらかといえば、そう思わない | そう思わない | 無回答 |
|-----|------|---------------|-----------------|--------|-----|
| 保護者 | 92% | 8% | 0% | 0% | 0% |
| 児童 | 92% | 8% | 0% | 0% | 0% |
| 教職員 | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% |

本校では、児童理解のための研修や朝会、子ども支援部会などを定期的実施し、また、必要に応じてケース会議を開催し、支援を要する子どもの教育の在り方や具体的な支援方法等について、検討を重ねている。そういう取組の成果が、「一人一人の児童生徒の尊重」において、4・3評価の合計が教職員100%である(4評価が大きく伸びたこと)や、児童89%、保護者84%、という評価に表れている。しかし、昨年度より4・3評価の合計は伸びたものの、児童や保護者において1・2評価がそれぞれ11%、16%と存在するの事実。この事実を真摯に受け止め、より迅速に子ども一人一人の思いや願いに寄り添った的確な対応ができるよう、今後も、適時にミーティングを開き、校内での支援体制を整え、組織としての対応力を高めていくとともに、外部関係機関等との連携をさらに密にし、児童一人一人の実態に応じた教育活動の展開に努めていく。さらに、学級通信の内容を、行事等の連絡というレベルから、子どもたちの日々の温かい関わりが保護者に伝わるような内容へと心がけて変えていく必要がある。

昨年度に比べ、児童の4・3評価がそれぞれ伸び、合計で9割を越えたことは評価できる。校内研修や毎学期の授業公開交流週間等の取組により、授業の質が高まった結果だと考える。

今後も、さらに子どもたちがわくわくしながら積極的に参加でき、分かる喜びを味わえるような授業づくりに努めるとともに、家庭としっかり連携した家庭学習の実施等により、児童の意欲的な学習態度の育成に努めていかねばならない。

②学ぶ楽しさやわかる喜びのある教育の推進

7 ICT活用

先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。

| 対象者 | そう思う | どちらかといえば、そう思う | どちらかといえば、そう思わない | そう思わない | 無回答 |
|-----|------|---------------|-----------------|--------|-----|
| 保護者 | 88% | 12% | 0% | 0% | 0% |
| 児童 | 88% | 12% | 0% | 0% | 0% |
| 教職員 | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% |

8 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。

| 対象者 | そう思う | どちらかといえば、そう思う | どちらかといえば、そう思わない | そう思わない | 無回答 |
|-----|------|---------------|-----------------|--------|-----|
| 保護者 | 94% | 6% | 0% | 0% | 0% |
| 児童 | 94% | 6% | 0% | 0% | 0% |
| 教職員 | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% |

9 児童生徒理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとして努めていると思いますか。

| 対象者 | そう思う | どちらかといえば、そう思う | どちらかといえば、そう思わない | そう思わない | 無回答 |
|-----|------|---------------|-----------------|--------|-----|
| 保護者 | 92% | 8% | 0% | 0% | 0% |
| 児童 | 92% | 8% | 0% | 0% | 0% |
| 教職員 | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% |

教職員と保護者の評価は、ほぼ昨年度と変わらないが、児童の4評価が大きく増え、4・3評価合計が88%となった。これは、教職員にICT活用の意識が定着しつつあり、児童も、ICT活用頻度の増加を実感している表れであると考える。今後も教職員どうしの情報交換や教え合いを密にし、ICT機器の積極的な活用により、子どもたちにとって学習内容が見え、わかりやすい授業となるよう努めていく。

8「授業力向上」において、4・3評価の合計を見ると、教職員は100%で昨年度と変わらないものの、児童92%、保護者94%と、それぞれ伸びている。これは、校内研修の充実や授業公開交流週間等の成果であると言える。また、9「児童生徒理解」においても、教職員の4・3評価が100%となり、児童及び保護者の4評価も伸びている。これも「一人一人を大切に、みんなで伸びる授業づくり」を継続して校内研修のテーマに掲げ、全職員で取り組んできた成果であり、児童理解朝会等の充実の表れであると考えられる。しかし、児童の2・1評価は昨年度より僅かに増えて13%となり、30人の児童が不満に思っていることも事実である。今後も、一人一人の児童理解に全力を尽くし、それぞれの良さや伸び等を、学級懇談会や学年・学級通信、学校だより等を通して、保護者へしっかりと伝えられるように努めていく必要がある。

③教職員の指導力向上

④健康づくりの推進

10 健康づくり

子どもは、好き嫌いなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。

| 対象者 | そう思う | どちらかといえば、そう思う | どちらかといえば、そう思わない | そう思わない | 無回答 |
|-----|------|---------------|-----------------|--------|-----|
| 保護者 | 88% | 12% | 0% | 0% | 0% |
| 児童 | 88% | 12% | 0% | 0% | 0% |
| 教職員 | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% |

⑤学習施設の整備

11 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

| 対象者 | そう思う | どちらかといえば、そう思う | どちらかといえば、そう思わない | そう思わない | 無回答 |
|-----|------|---------------|-----------------|--------|-----|
| 保護者 | 92% | 8% | 0% | 0% | 0% |
| 児童 | 92% | 8% | 0% | 0% | 0% |
| 教職員 | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% |

⑥子どもたちの安全・安心の確保

12 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

| 対象者 | そう思う | どちらかといえば、そう思う | どちらかといえば、そう思わない | そう思わない | 無回答 |
|-----|------|---------------|-----------------|--------|-----|
| 保護者 | 92% | 8% | 0% | 0% | 0% |
| 児童 | 92% | 8% | 0% | 0% | 0% |
| 教職員 | 100% | 0% | 0% | 0% | 0% |

昨年度と比べ、児童と教職員の4・3評価が増え、保護者の4評価が増えた。「好き嫌いなく食事」に関しては、日頃の給食指導の他に、9月の日曜参観で全学年「食育」に関する授業に取り組み、PTA講演会でも「食育及び弁当の日」に関する講演を行った。保護者に説明を重ね、1月には、5・6年生を対象に初めての「弁当の日」を実施することになった。「適度な運動」に関しては、昨年度に引き続き、体育主任のリードで子どもたちが一輪車やタグラグビー、ボール運動、体づくり運動等にも参加する機会が増えた。「睡眠」に関しては、各学年の身体測定時にミニ健康学習として養護教諭が睡眠の大切さを伝えた。それらの取組の結果だと考えられる。

来年度は「生活習慣チェックカード」を有効活用し、子どもたちの健康生活習慣の定着がさらに進むよう取り組む。

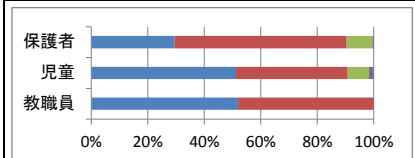
昨年度に比べ、教職員や保護者の4評価が増え、児童の4・3評価も少し増えて約9割となった。一昨年度の学校訪問での指摘事項を受け改善した「運動場の遊具の複数チェック体制」も継続しており、日常の安全点検に対する職員の意識も向上していることが伺える。学校主事を中心に、危険箇所の補修等に迅速に対応できたことや特別教室の整備に努めたことも、児童及び保護者に伝わっているのだと考える。今後も、危険箇所の把握及び迅速な対応に心がける。

登下校時の道路横断や歩道の歩き方、自転車の乗り方等については、機会あるごとに指導を重ねている。また、避難訓練は、地震、火災、不審者侵入の場合を想定して毎年実施しており、昨年度に引き続き、教師がいない休み時間での地震避難訓練も行った。このような取組の成果が、児童・保護者の4・3評価の伸びとして表れており、児童の安全・事故防止に関する意識も向上しているように思う。今後も、自分の命は自分で守ることができるように、高い判断力と行動力を持った児童の育成に努める。

⑦家庭や地域社会の学校教育活動への参画・支援

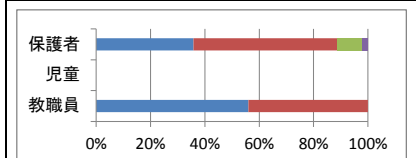
13 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

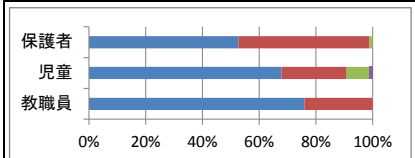


昨年度「子どもフォーラム」という形で初めて地域の方々にも入っていただき実施した「なかよし集会」が、子どもたちと地域の方々との交流という面で非常に良かったので、今年度も、10月の「なかよし集会」には、地域の方々にも参加していただいた。その他にも、1年生と老人会とのふれあい交流の他に、ミントの会によるふれあい工作会やミントの会と2年生とのふれあい給食、3年前から始めた6年生と老人会とのクラブ・ゴルフ交流会等、それぞれに前年度までの反省をもとに工夫して実施した。子どもたちは、それぞれの交流体験を通して、地域のおよび人々の温かさを実感することができたように思う。教職員の4評価もぐんと増え、職員も、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると実感しているし、保護者の4・3評価が約9割と向上したことから、学校の取組をある程度感じていただいていることが伺える。しかしながら、「連携・協力」が足りないと感じている保護者が昨年度より少なくなったものの、まだ11%存在するということや、13「教育方針・目標の理解」において、児童・保護者・教職員、全ての4評価は増えている中で、1割の児童・保護者が、十分理解できていないという事実がある。今後は、もう一歩、保護者や地域へ歩み寄る気持ちを全職員が持ち、より「地域・社会に開かれた学校」を目指し、学校だよりや学年・学級通信、また、PTA総会や学級懇談会等、機会を捉え情報の発信に努めていくとともに、学校の教育方針や目標についても分かりやすく伝えていく必要がある。

本校の教育

15 安心できるくらし(徳)

子どもたちが安心して過ごせる学校になるように取り組んでいますか。

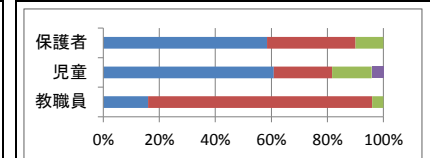


15「安心できるくらし」については、4評価を昨年度と比較すると、児童はほぼ変わらないものの、教職員が76%、保護者も53%と大きく増え、4・3評価の合計で見ると、教職員100%、児童91%、保護者99%と、取組に対する満足度が高い。教育相談の充実、毎月のアンケート、その他、日々の活動の中で何かあればすぐ対応してきたことが、子どもたちの安心感につながり、子どもの声や生活を通して保護者へも学校の姿勢を感じていただけたのではないかと考える。また、これは、全ての授業において「友達のことを聞き、学び合う」ことに力を入れて取り組んできたことにより、児童一人一人が安心して発言できるようになり各学級の支持的風土づくりが進んだ結果であるとも言える。

16「学び合いの授業づくり」の4評価は、教職員・児童・保護者、全て昨年度より伸びており、継続した取組の成果が伺える。ただ、15「安心できるくらし」では、児童の2・1評価が9%(22人)おり、それを今後の課題として、一人一人に寄り添う意識をさらに高め、取り組んでいく必要がある。

17 進んで運動に親しむ(体)

子どもたちは進んで運動に親しんでいますか。



4・3評価を見ると、保護者90%、児童82%、教職員96%という結果で、体育主任を中心とした、一輪車やラグビー、ボール運動、体づくり運動、なわとび等のいろいろな運動の紹介や担任からの声かけにより、進んで運動に親しむ児童の割合は比較的高い。質問に「体力をつけようと思って・・・」という言葉が入っており、本来、運動好きでたくさん体を動かしている児童が深く考えすぎて低い評価をつけていることを考慮すれば、児童の4・3評価はもう少し高くなると思われる。ただ、児童の1評価が4%(10人)という状況もあり、今後も、運動する意義を伝えながら、児童の運動習慣の確立に努めていく。

来年度の具体的な取り組みについて

今年度の学校評価をふまえ、下記の8点について、全職員一丸となって取り組む。

- 年度初めの家庭訪問や各学期の学級懇談会を充実させるとともに、日常的な家庭訪問や電話連絡等の機会を活用し、こまめな連絡により保護者との信頼関係を築いていく。
- PTA総会や日曜参観等、たくさんの保護者が来校される機会を利用したり、学校だよりや学年・学級通信等の内容をさらに工夫したりして、学校の教育方針や取組を分かりやすく伝える。
- VS活動を柱としたボランティア活動や道徳の授業、自主的実践的態度を育成する特別活動を中心に、心の教育のさらなる充実を図る。
- 今年度までの研究テーマを継続し、「学び合い」を柱に、確かな学力の向上と自尊感情の育成に努める。
- かなり定着してきた「ノーテレビ・ゲーム・スマホデー」の取組に、「生活習慣チェックカード」の活用による健康習慣の振り返りを組み入れ、健康生活の定着を図る。
- 体育の授業や業間活動を充実させ、体力向上を図る。
- 「弁当の日」の定着に向けて保護者と連携を密にしながら取り組み、児童の「食」に関する意識の高揚や感謝の念、生きる力の育成に努める。
- 学校独自のいじめ防止基本方針を見直し、いじめのない学校づくりのため、人権意識を高めるとともに、教育活動全体を通して、互いに認め合う人間関係の構築に努めていく。

学校関係者評価

- 昨年度、ほとんどの項目において、教職員の評価に比べ保護者の評価が低いという傾向が見られたが、今年度は、ほぼ全ての項目で保護者の評価が高くなっており、昨年度の反省をもとに、学校が、家庭訪問や学級懇談会の内容充実や、PTA総会等の機会や学校だより及び学年・学級通信等を活用し、日々の教育活動や力を入れている取組等について積極的にPRしたことが、保護者にも伝わったのではないかと考える。今後も、引き続き、教育活動の充実や保護者及び地域への情報発信に努めてほしい。
- 授業参観に来られる保護者は多いのに、その後の学級懇談会まで残って参加される保護者が少ないという状況は、ずっと前から変わらない本校の課題の一つであるようだ。保護者にとっては、担任が資料をもとに説明し、次に、参加された保護者の意見を聞いて、それで終わり、というような内容の懇談会では、あまり参加の必要を感じないのではないかと。学級の子どもの様子や伸びを画像等も活用しながら具体的に紹介したり、担任の思いをじっくり伝えたりする等、保護者にとって魅力があり、参加したくなるような懇談会の持ち方を工夫していく必要がある。